

プレゼンテーションスライドに対する分割手法の提案と 講義スライドへの応用

坂本 祥之[†] 清水 敏之[†] 吉川 正俊[†]

[†] 京都大学大学院情報学研究科 〒 606-8501 京都府京都市左京区吉田本町

E-mail: [†]sakamoto@db.soc.i.kyoto-u.ac.jp, ^{††}{tshimizu,yoshikawa}@i.kyoto-u.ac.jp

あらまし 近年，学会での発表や，講義などで，プレゼンテーションスライドが使われることが増えている．その中で，講義のプレゼンテーションスライド（以下，「講義スライド」と呼ぶ）は，講義を欠席した人や，後で講義を復習したい人のために，公開されていることも多い．しかし，講義スライドは，講義を聞くことを前提として作られている場合など，そのままでは理解できないことも多い．本研究では，話題ごとに講義スライドを分割（セグメント化）することで，講義スライドの閲覧を補助することを考える．また，セグメント情報を利用して，様々な講義を比較するといった応用例についても考察する．

キーワード プレゼンテーションスライド

1. はじめに

近年，学会の発表や学校の講義で，Microsoft PowerPoint 等のソフトウェアで作成された，プレゼンテーションスライドが広く使われている．特に，講義スライドに関しては，講義の復習のためや，講義に出席できなかった人のために，配布されたり，公開されることも多い．しかし，プレゼンテーションスライドは，口頭発表することを前提として作成されている等の理由により，それ単体では内容を理解できないことも多い．

2. 関連研究

- ・ 去年の DEIM の研究から，関係しそうなもの幾つか
- ・ 新しい論文 2,3 本

3. スライド分割手法

3.1 過去自分の研究における手法の説明とか

3.2 精度向上のための手法の説明

- ・ tf-idf による精度向上の試み
- ・ 文字が少ないスライドが出現した場合の対処

4. 講義スライドへの応用

- ・ 講義スライドを実際に分割してみる
- ・ 違う大学の講義で，アライメントを取る等

5. 評価実験

- ・ 精度向上したという実験
- ・ 講義スライドに関する実験

6. おわりに

謝辞を入れる

文 献

- [1] 羽山徹彩, 難波英嗣, 國藤進: “プレゼンテーションスライド情報の構造化”, 電子情報通信学会論文誌 D, Vol. J92-D(9), pp.1483–1494, 2009–09
- [2] 岡本拓明, 小林隆志, 横田治夫: “プレゼンテーション蓄積検索システムにおける適合度計算の改善”, DEWS2004, 1-B-03
- [3] Keishi Tajima, Yoshiaki Mizuuchi, Masatsugu Kitagawa: “Cut as a Querying Unit for WWW, Netnews, and E-mail”, HYPERTEXT, 1998